

平成28年度 大学を活かしたまちづくりのための 草津市社会実験推進事業について

1

平成28年6月

草津市総合政策部草津未来研究所

全体の流れ

草津市社会実験推進事業について

3

(仮称) UDCBKの概要について

12

(仮称) UDCBK開設について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

44

草津市社会実験推進事業について

- ▶ 平成27年度より実施
- ▶ 資格
 - 草津市と包括協定を締結している4大学（立命館大学、滋賀大学、成安造形大学、京都橘大学）を対象
- ▶ 分野：制限なし
- ▶ 上限金額：50万円（消費税込）
- ▶ 要件
 - ▶ 草津市内で行われる事業であること。
 - ▶ 事業の成果が、草津市民や草津市に広く還元される公共性及び公益性の高い事業であること。

平成27年度実績

提案大学	概要
立命館大学	SOFIX（土壌肥沃度指標）技術による草津農産物のブランド化
滋賀大学	特別支援教育におけるICT教育の果たす役割に関する実証的検証
成安造形大学	草津市内における歴史街道軸をもとにした地域活性化事業提案
京都橘大学	子育て支援のための市民講座および意識調査

平成28年度社会実験推進事業の変更点

No	平成27年度事業	平成28年度事業
1	包括協定締結 4 大学	包括協定締結 5 大学
2	分野は自由	市からテーマを提示し、協議の上、決定
3	6月中旬から2月末	10月から2月末
4	他の大学・団体等と連携した内容でもかまわない	<ul style="list-style-type: none"> 草津市民（あるいは／および）市民団体との協働事業であること 他の大学・団体等と連携した内容でもかまわない
5	事業実施に必要な草津市の公共施設の先行予約、施設及び附属設備の使用料の減免	<ul style="list-style-type: none"> 市が設置する（仮称）アーバンデザインセンターを研究拠点とすること 中間報告、最終報告の2回市民を対象とした報告会を実施すること 事業実施に必要な草津市の公共施設の先行予約、施設及び附属設備の使用料の免除

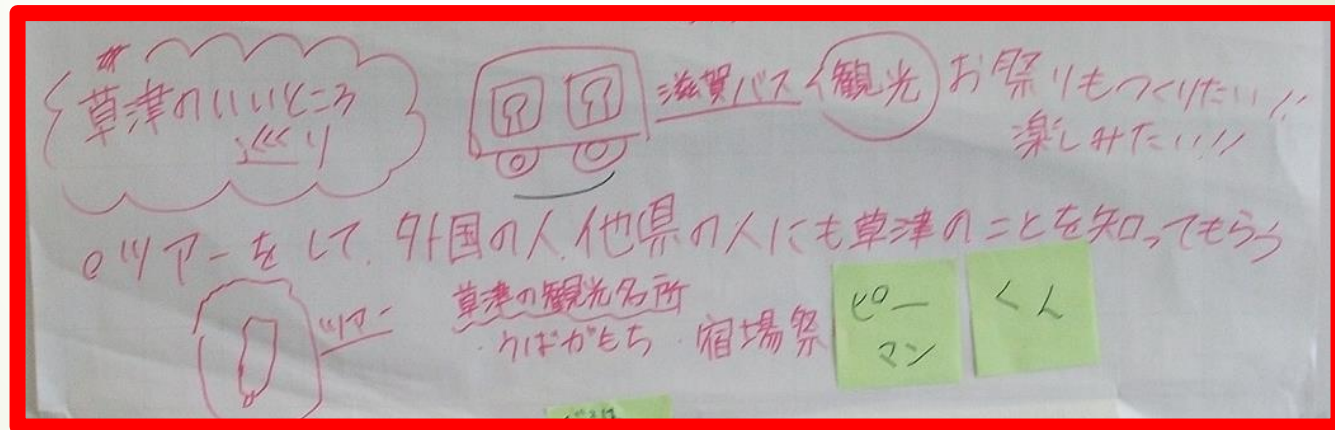
(参考) 第6回未来創造セミナーWS (2)

- ▶ ワンルームマンションの利活用



(参考) 第6回未来創造セミナーWS (3)

- ▶ 「草津のいいところ巡り」
 - ▶ 子どもや他県出身学生や留学生等の視点を組み入れた「草津いいところ巡り」の開発



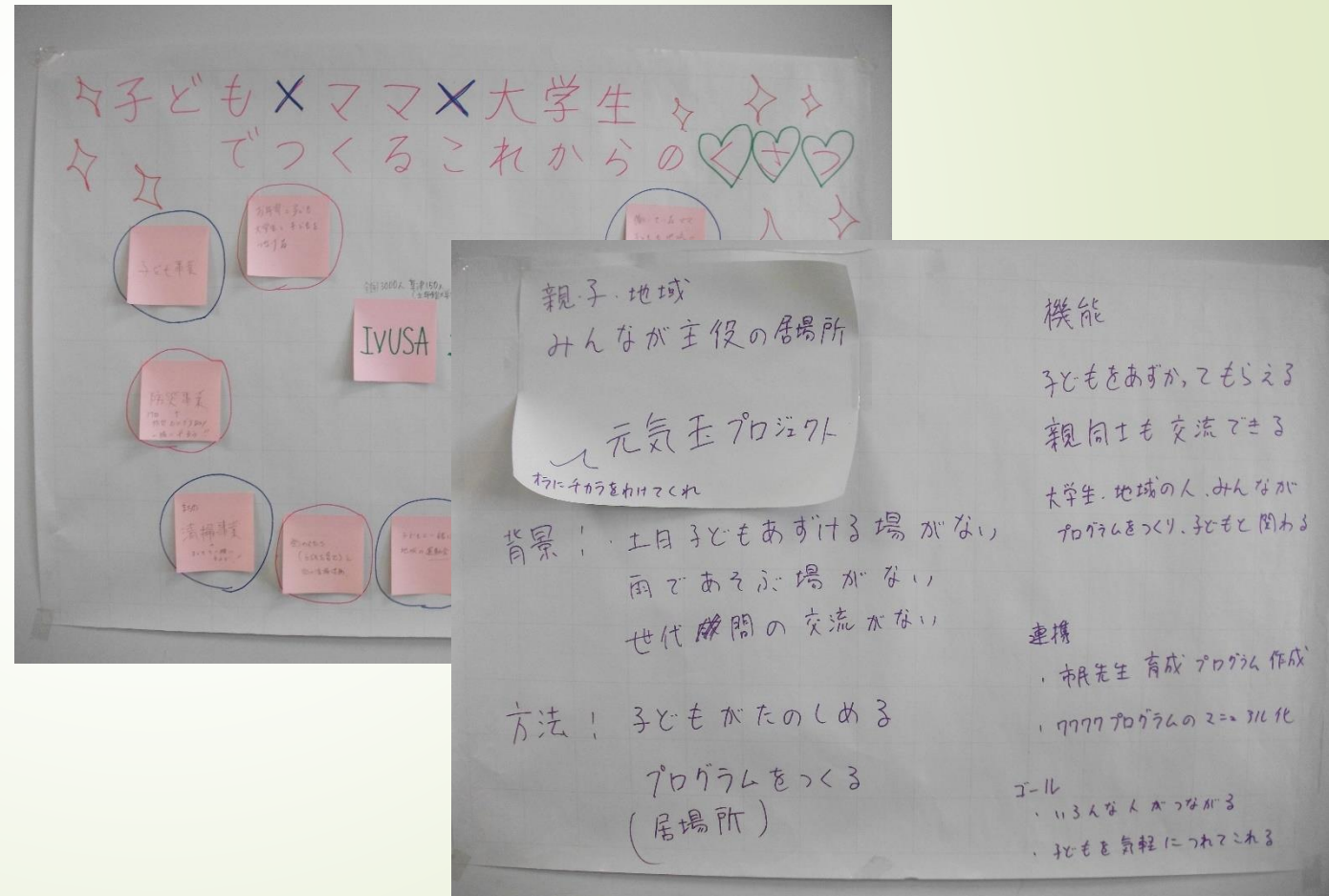
(参考) 第6回未来創造セミナーWS (4)

▶ 子どもプロジェクト：子どもと大学生と大人のためのプログラム

▶ 例えば、宝塚市子ども委員会等の試み

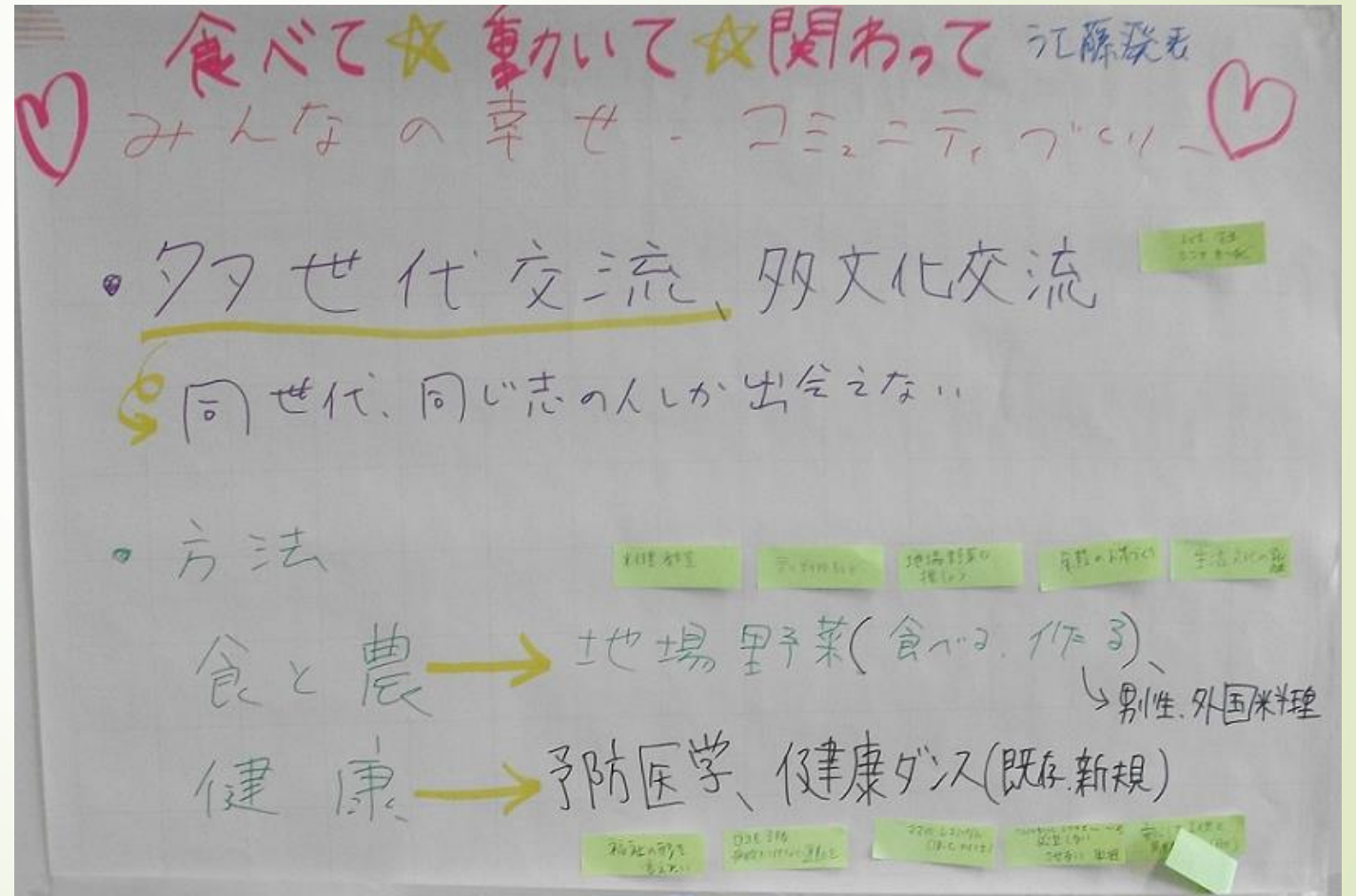
子どもたちがいきいきと暮らし、笑顔にあふれるまちをつくるには、子どもたちの思いや発想が必要です。子どもたちの意見を未来の宝塚のまちづくりに生かすために、子ども委員会を設置

市内在住・市内の学校在学の小学5年生から高校3年の子どもがチームを組み、半年間に市内外の視察やワークショップ等を重ね、提言を発表する。



(参考) 第6回未来創造セミナーWS (5)

- ▶ 食べて、動いて、関わって
(第5回未来創造セミナーのテーマ)



全体の流れ

草津市社会実験推進事業について

3

(仮称) UDCBKの概要について

12

(仮称) UDCBK開設について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

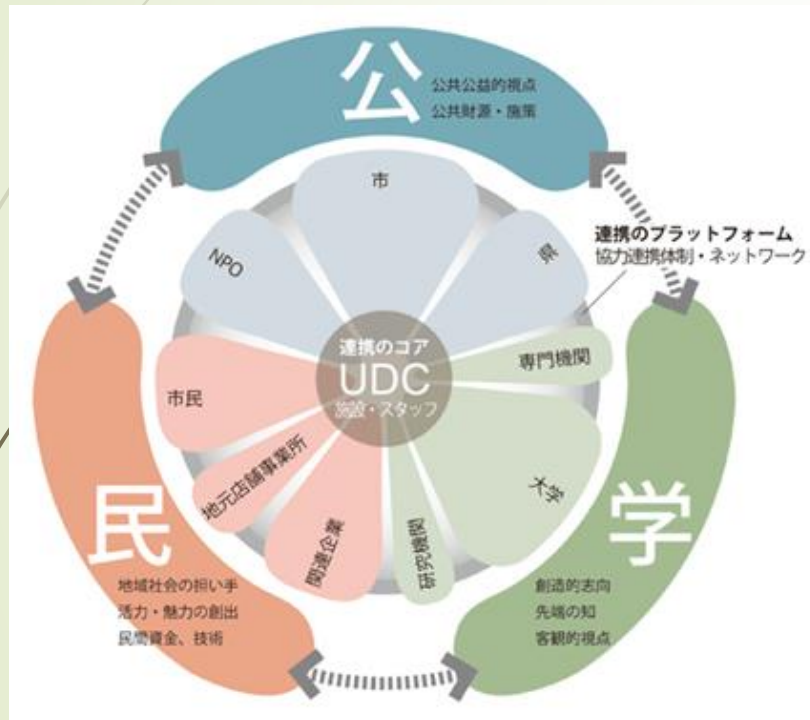
(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

44

アーバンデザインとは？

- ▶ 都市空間（アーバンスペース）は、多くの建築物、道路、樹木、街灯やベンチなどによって構成されています。また、市街地だけでなく、その周辺の田園や緑地も、都市空間を支える重要な構成要素です。
- ▶ その空間には歴史があり、複合化した地域の課題があり、人々の活動があり、そして、未来への可能性が広がっています。
- ▶ アーバンデザインでは、地域の歴史や現状を知り、地域の個々の課題を構造化し、地域の複合的な課題として捉えたうえで、未来のまちのイメージについてみんなで話し合い、共有します。そうして、未来を創造するための新たな活動を産みだし、人々のニーズにあった都市空間をデザインすることです。

アーバンデザインセンター（UDC）とは？



アーバンデザインセンターとは

- 複合化した地域の課題に対して、公・民・学のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むコラボレーションを進めるためのプラットフォーム
- 「大学」や専門家は、新たな技術や理論を積極的にまちに応用すると共に、長期的・客観的視点から見たコラボレーションの方向づけをする上で、重要な役割を担う。
- 公・民・学のマス・コラボレーションを地域主体で実践し、まちを創造する拠点

全国のUDC一覧

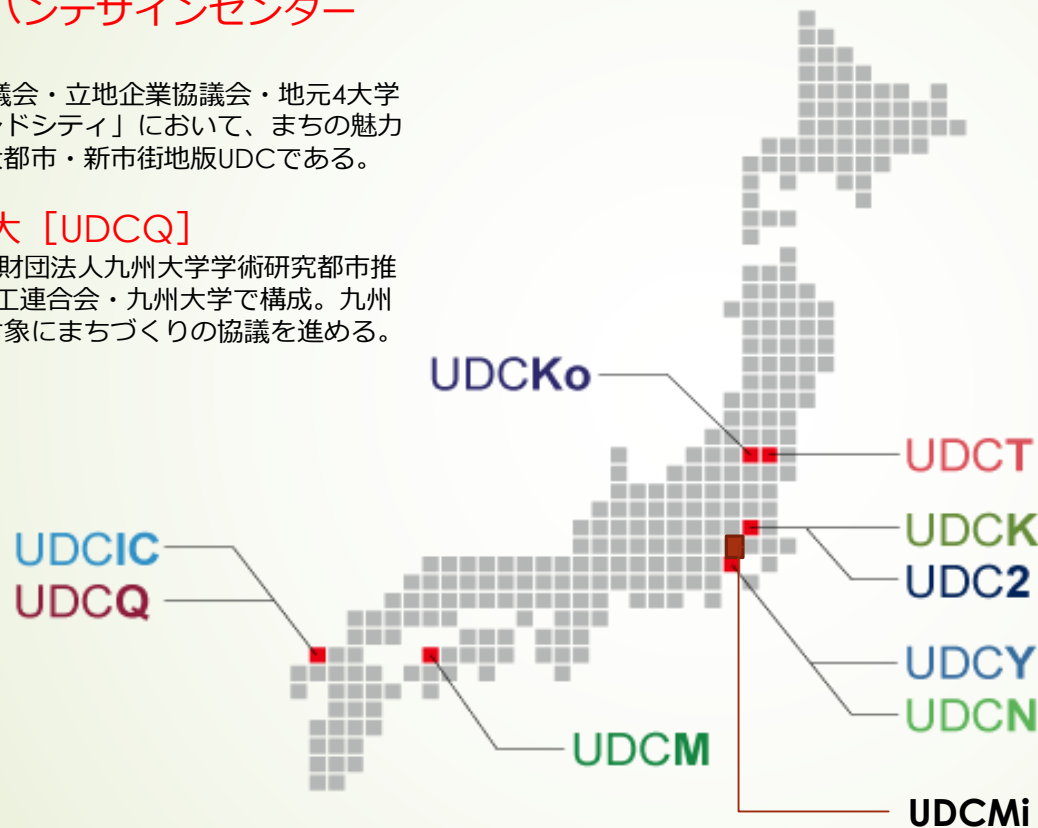
14

■ アイランドシティ・アーバンデザインセンター [UDCIC]

2012年10月設立。福岡市・地域団体協議会・立地企業協議会・地元4大学で構成。福岡市東区の人工島「アイランドシティ」において、まちの魅力向上やプロモーションに取り組む地方大都市・新市街地版UDCである。

■ アーバンデザイン会議九大 [UDCQ]

2007年3月設立。福岡市・糸島市・公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構（OPACK）・地元町会・元岡商工連合会・九州大学で構成。九州大学キャンパスが移転した糸島半島を対象にまちづくりの協議を進める。



■ 松山アーバンデザインセンター [UDCM]

2014年4月設立。松山市・地域団体・企業・地元4大学で構成。松山市のまちなかを対象に、「未来志向のまちづくり」と「歴史・伝統・文化の継承」を柱に、将来ビジョン検討や個別地区の空間デザイン等に取り組む。

■ 柏の葉アーバンデザインセンター [UDCK]

2006年11月設立。柏市・東京大学・千葉大学・地域団体・企業で構成。千葉県柏市北部 柏の葉エリアにおいて、知の資源や民間の活力を最大限に生かした次世代環境都市・国際学術研究都市の実現を目指し活動している。

■ 田村地域デザインセンター [UDCT]

2008年8月設立。田村市行政区長連合会・田村市・東京大学で構成。福島県田村市において、合併した旧町村単位で地方小都市のコンパクトなまちづくりに取り組む。

■ 郡山アーバンデザインセンター [UDCKo]

2008年11月設立。地元町会・地元企業に所属する個人・東京大学で構成。地方中核都市である福島県郡山市の郊外に拠点を置く民間主導型UDCである。

■ アーバンデザインセンター横浜 [UDCY]

2008年4月設立。横浜に拠点を置く専門家が連携するネットワーク型シンクタンク。これからの横浜のあり方を幅広い視野から考え、実践に向けて取り組む大都市版UDCである。

■ UDCN 並木ラボ

2014年3月設立。横浜市立大学COC事業の一環で、横浜市金沢シーサイドタウンに拠点を置き、郊外住宅地における超高齢化・空家増加・建物老朽化といった課題への対応に向け実践的に取り組む。

■ 柏アーバンデザインセンター [UDC2]

2015年4月設立。柏市・地元の団体や個人・東京大学で構成。千葉県柏市の柏駅周辺エリアにおいて、地域が抱える課題を解決しながら、持続可能なまちの魅力づくりと資産価値向上に取り組む。

■ アーバンデザインセンターうらわ [UDCMi]

2015年10月設立。さいたま市の団体や慶應義塾大学・東京電機大学で構成。埼玉県さいたま市の浦和美園駅周辺エリアにおいて、地域が抱える課題を解決しながら、環境未来都市づくりに取り組む。

(仮称) UDCCBKの目的

- 地域を知り、お互いを知ること
 - 過去の庶民の暮らしの工夫や知恵を再発見すること
 - 地域の現在の状況及び課題を可能な限り把握すること
 - 個別の課題群を構造化し、複合化した課題として認識すること
 - 活動を通じてお互いを知り合うこと
- 未来のまちのイメージを共有すること
 - 中長期的な視点を獲得すること
 - バックカスティングにより将来へのインパクトが大きい課題を明確にすること
 - ステークホルダー間の利害を調整すること
- 新たな活動を創出すること
 - 新たな活動の可能性を見出すこと
 - 未来のまちを創造する萌芽的活動を支援すること
 - 指標等を参照しながら、互いの活動を適宜調整すること

UDCの役割

地域を知り、お互いを知り、みんなで話し合っ、未来のイメージから現在の課題を見つけ、その課題を解決する活動を産みだすことを支援する。

地域を知る
互いを知る

- (学習・交流)
地域を知るためのワークショップやまちあるき
(調査研究)
- ・各種統計データ等の収集
 - ・市政等の説明、解説、市民意識調査
 - ・課題の抽出・構造化

未来の
イメージの
共有

- (学習・交流)
- ・未来のまちを考えるワークショップ
 - ・ワールド・カフェ、シナリオ・ワークショップ、コンセンサス会議 等
 - (調査研究)
 - ・合意形成プロセスの研究など

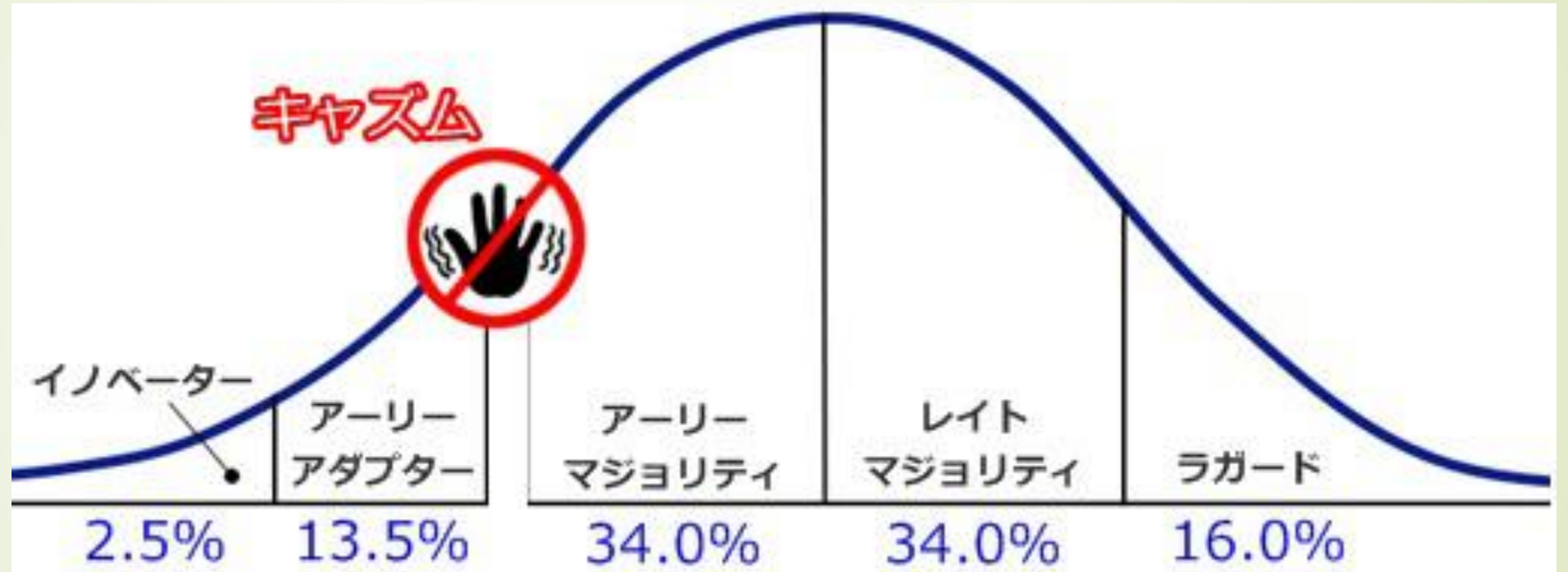
新たな
活動の創出

- (社会実験)
- ・ワークショップ等の提案を実施
(調査研究)
 - ・市民活動に関する調査研究など

(仮称) UDCBKのターゲット

未来先取

現実対応



マーケティングis.jp

「イノベーター理論とキャズム理論」 <http://marketingis.jp/archives/2365>

アーバンデザインセンター
のターゲット

従来の行政のターゲット

(仮称) UDCBK発展のための三要素

17

居場所・交流

居心地の
いい場所

- ・人通りの多い目立つ場所
- ・カフェのような入りやすく、話しやすい雰囲気
- ・ワークショップなどを気軽に行える機器類の整備

学習・成長

魅力ある
プログラム

- ・市民が本当に語りたい事柄や行いたい活動の支援
- ・市民とともに組み立て、UDCはサポートし、実施する場

調査研究・活動

イメージを
具現化する
社会実験

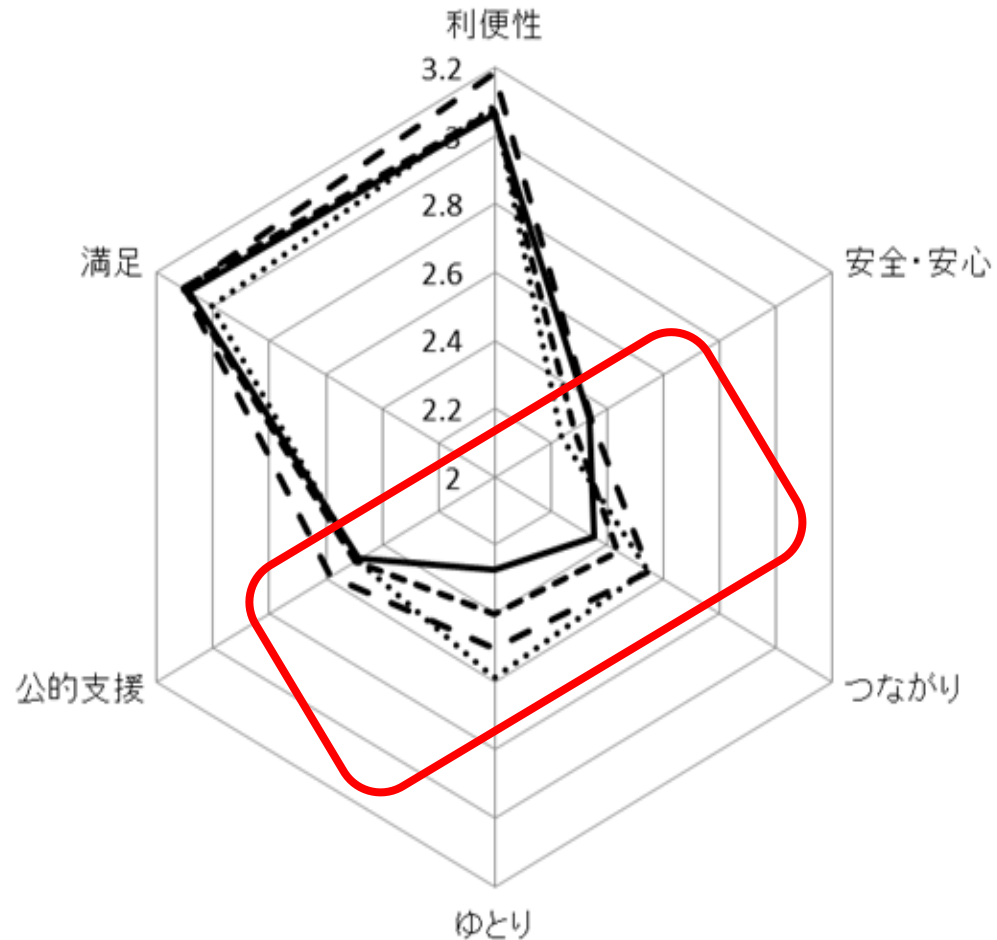
- ・公共的課題を多様な組織や個人が参画して解決への取り組み
- ・地元企業・立地企業等専門的知識を持つ組織の参画
- ・近くに総合大学があり、積極的に参画

(仮称) UDCBKの効果

- ▶ 連携・交流の場の提供
 - ▶ 就業・通学者、単身赴任者、下宿生等と居住者との交流の機会創出
 - ▶ 子育て世代および女性の活躍の場の提供
- ▶ 市民主役の萌芽的活動の支援
 - ▶ 市民主役の萌芽的活動を支援（社会実験）し、既存支援活動体に切れ目なく接続
- ▶ まちづくりに関する情報発信
 - ▶ 地域のまちづくりに関連する情報の発信
- ▶ 女性の参画
 - ▶ 政策決定プロセスへの女性の意見、及び参画

UDCが有効に機能するための条件ですが、同時に、これらは草津市の課題でもあります。草津市の課題解決にUDCの活動は重要な貢献を行いますが、UDCを進めていくことが草津市の課題解決にも繋がると考えます。

(参考) 各要因(領域)別 「住みやすさ」に対する意識

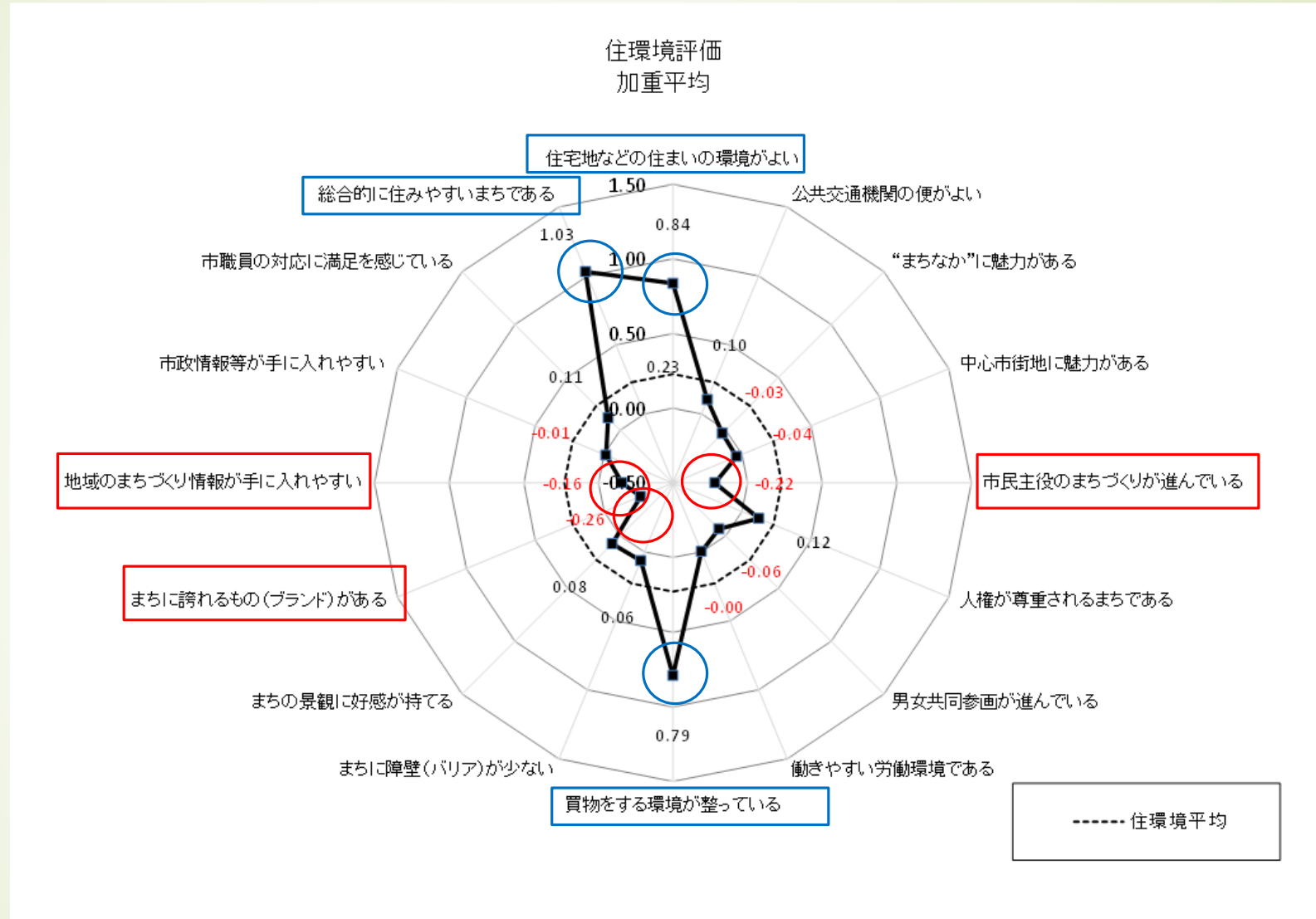


要因(領域)	要素(項目)	現状に対する評価が高いもの(平均値以上)
利便性	公共交通(バス・電車)の利便性が良い	○
	日常の買い物の利便性が良い	○
安全・安心	犯罪が少ない	
	災害が少ない	
つながり	集える場所がある	
	近所を含むコミュニケーションがある	○
ゆとり	伝統・文化	
	イベント等への参加	
公的施設	医療施設が充実	○
	高齢者施設が充実	
	子育て関係施設や教育が充実	

出所: 草津未来研究所作成

- 新市街地
- 旧市街地
- - 新旧混在
- 郊外

* 「満足」はアンケートによる全体的な草津市の住みよさの満足度



(仮称) UD CBKの運営体制 (案)

(仮称) アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

(監理運営) 運営委員会

構成団体

委員長
(大学関係者)

副委員長
(2名)
・草津市副市長
・(仮称) UD CBK
センター長

委員

計
15名

- ・まちづくり協議会連合会 (1名)
- ・草津商工会議所 (1名)
- ・パナソニック アプライアンス社 (1名)
- ・滋賀銀行 (1名)
- ・中間支援NPO (1名)

民

- ・立命館大学等 (4名)

学

- ・草津市 (1名)
- ・草津市コミュニティ事業団 (1名)

公

(仮称) UD CBK 運営スタッフ = 連携のコア

センター長

各プログラムを統括し、全体の
アーバンデザインについて指示
調整等を行う

副センター長

プロジェクトアドバイザー

プログラムごとに専門
的観点から指導・助言
を行う。

シニアディレクター

建築、公共空間、アート、祭り、
スポーツ、産業技術等、各担当
における企画・調整・連携を図
りながら、事業執行を担う。

ディレクター

運営サポーター

構成団体および協力団体所属員、
アーバンデザインスクール修了
者の拠点として利用

各プログラム (セミナー、ワークショップ、社会実験等)

全体の流れ

草津市社会実験推進事業について

3

(仮称) UDCBKの概要について

12

(仮称) UDCBK開設について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

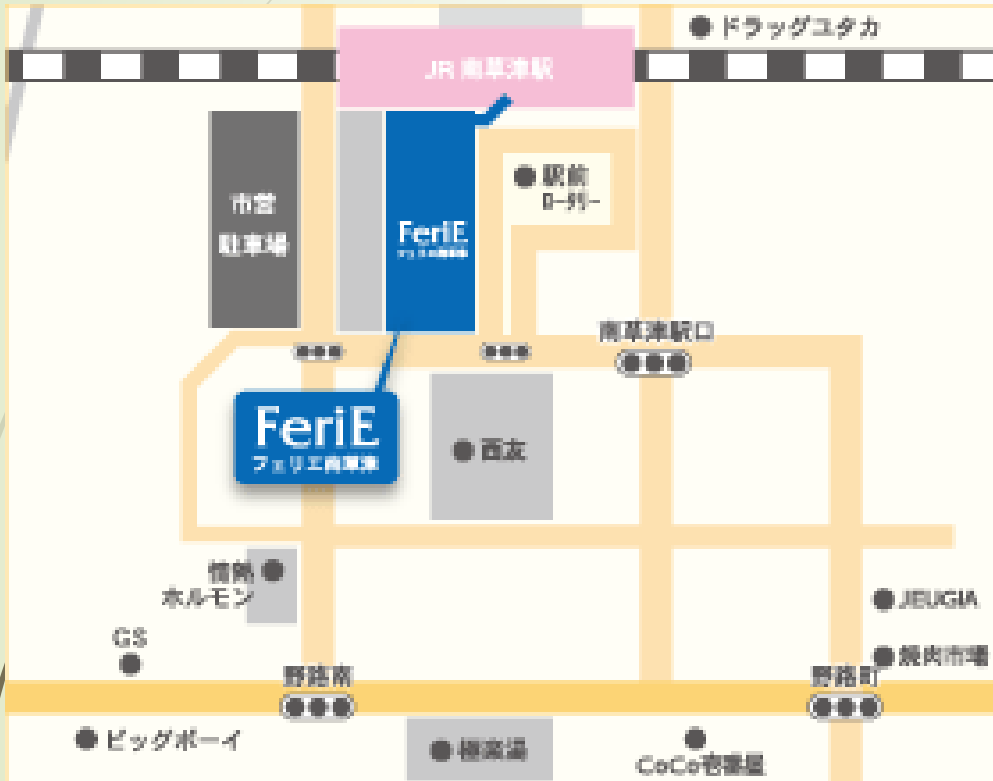
(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

44

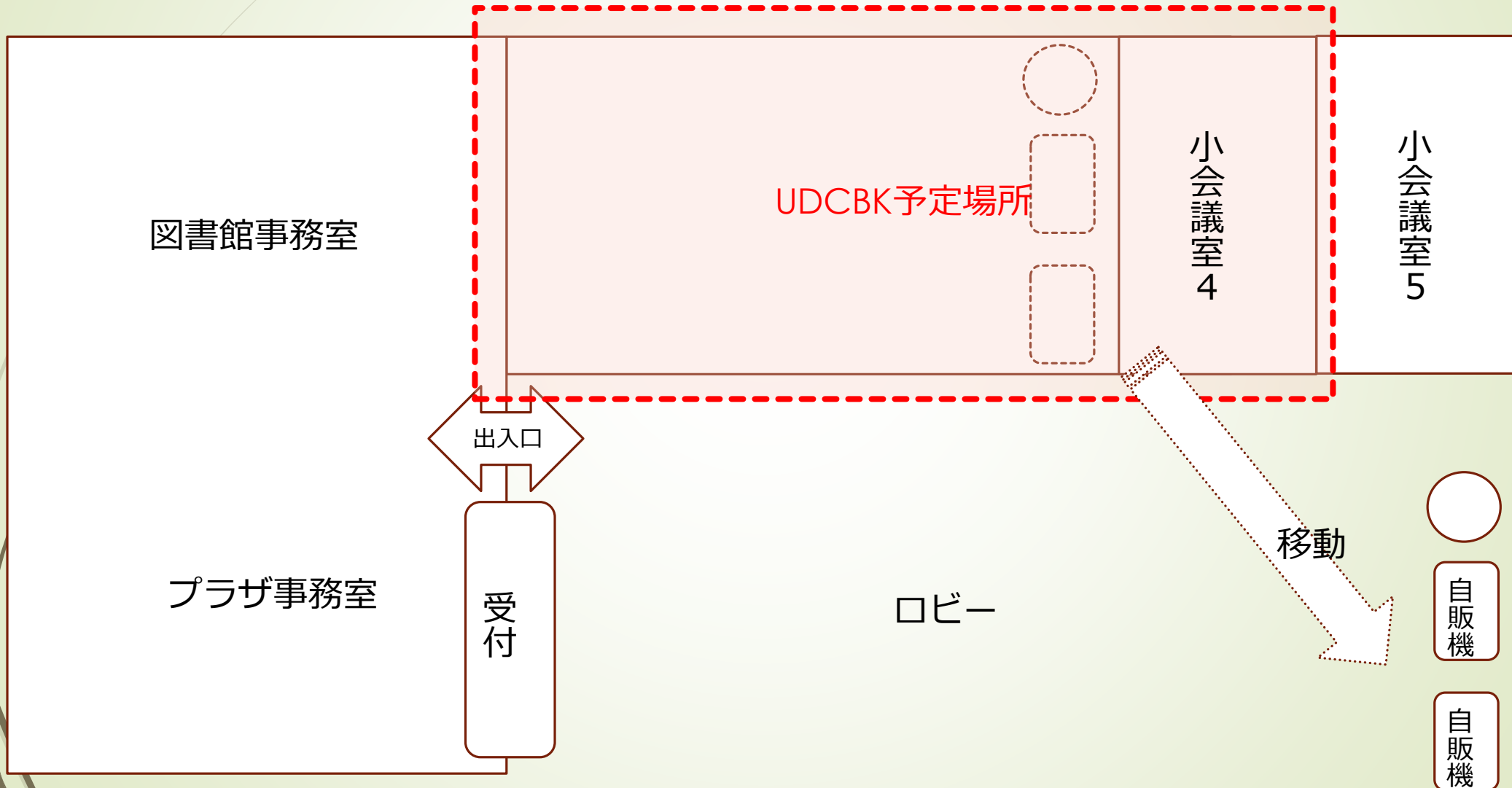
(仮称) UDCCBKの開室場所・時間について (案)

- ▶ 開室場所
 - ▶ 南草津駅前フェリエ5階の市民交流プラザ内
- ▶ 開室予定日時
 - ▶ 平成28年10月15日(土) 午前10時
- ▶ 開室曜日・時間
 - ▶ 火曜から土曜 (日・月・祝(祝日が月曜の場合は火曜日休室))
 - ▶ 午前10時から午後6時45分

(参考) フェリエ



(仮称) UDCBKの設置予定場所



間仕切りについて

利用可能曜日や時間帯が市民交流プラザ、南図書館とは異なること、南図書館と隣接していること、から
容易に人が侵入できないようにする
可能な限り遮音性を確保する
施錠可能とする
等を満たすため、ハイパーテーション（2100mm）にて間仕切る。



レイアウト (案)

オープンスペース



クローズドスペース
(小会議室 4)



相談室機能

倉庫機能



調査研究機能

執務室機能

(仮称) UDCCBKの利用について (案)

- ▶ (仮称) UDCCBK及び構成団体が実施する調査研究、社会実験等の打ち合わせ利用
- ▶ 構成団体・協力団体の南草津駅前出張所または活動拠点として様々なサービスの提供に利用
- ▶ 構成団体・協力団体のイベント等（15人程度）での利用
 - ▶ 15名以上の場合は隣接の市民交流プラザ会議室を利用
- ▶ 環境月間や児童虐待防止月間などの啓発のための各種展示
- ▶ 未利用時はオープンスペースとして誰でも利用可能

新拠点を検討する上での条件①

(赤字強調は今回)

外観 (周辺環境)

- 南草津駅前の人通りの多い道路に面したビルの1階が望ましい
(地図の枠内)
- 公園や広場などの近くが望ましい
- 建物はガラス張りで、外から内部が見える

内観 (設備等)

- 多目的ホールとして設計する
- 机や椅子は自由に移動できる
- ホワイトボードやプロジェクターなどを常備する
- 飲食の持ち込みを可とする (小さなカフェ機能)
- まちの情報ステーション的な機能も兼ねる
- 子育て世帯が多い地域のため、プレイルーム的な機能を持たせる
- バス待ちなど学生や社会人の待機場所としても活用する
- 無線WiFi、PC及びスマホ用電源を整備する

新拠点を検討する上での条件②



全体の流れ

草津市社会実験推進事業について

3

(仮称) UDCBKの概要について

12

(仮称) UDCBK開設について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

44

(仮称) UDCCBKの機能 (案)

32

機 能	内 容
学習・交流	学習・交流の場の創出 公民学連携のきっかけづくり
調査研究	アーバンデザイン等草津、特に南草津の未来のまち づくりに関する調査研究
社会実験	未来のイメージを具現化する社会実験の実施
情報発信	F M局やS N S等を活用した情報発信

学習・交流（案）

	機能	内容	回数
アーバンデザイン スクール	学習	（仮称）UDCBKの運営を担う人材の育成を目的に、UDC運営に必要な知識等の取得	4回
未来創造セミナー	交流	多様な人々の交流を目的に草津の歴史や草津に住む人々のライフストーリー等を語ってもらう場	4～6
	連携	産学公民連携により、草津の未来のイメージを具現化するアイデアを纏め、社会実験等に接続	4～6
その他イベント	交流・ 学習	環境月間や児童虐待月間等オープンスペースの展示に合わせたセミナーや防災おにぎりデー等	4～6

合計 20回予定

アーバンデザインスクール（学習）

■ アーバンデザインスクール

■ 目的

- （仮称）UDCBKの運営を担う人材の育成を目的に、UDC運営に必要な知識等を取得する。

■ 対象者

- （仮称）UDCBKの運営に意欲と関心を持つ方

■ 人数

- 15人程度

■ 回数

- 半期4～5回を1クールとし、年2回実施する（今年度は1回）

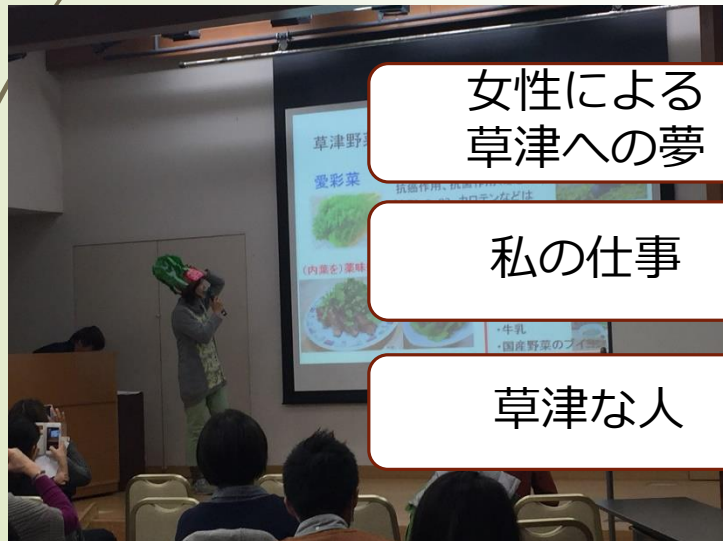
■ テーマ

- 「アーバンデザイン」「食と農」「健康」「子育て」「産業振興」

未来創造セミナー（交流）

▶ 未来創造セミナー（交流中心）

- ▶ 目的 草津には、昔からずっと住んでいる人、就職や結婚、出産や進学、海外からの人、またはリタイヤ等を機に他から草津に移ってきた人、通勤・通学や社会活動などで草津に通う人などいろいろな人が集っています。そのような人たちが自らの人生（ライフ・ストーリー）を語り、そして草津の現在、未来への思いを知り合い、参加者がお互いを理解しあう交流の場を提供します。
- ▶ 対象者 草津に関心のある人々
- ▶ 人数 100人程度（テーマにより可変）
- ▶ 回数 月1回（10月から6回）



女性による 草津への夢

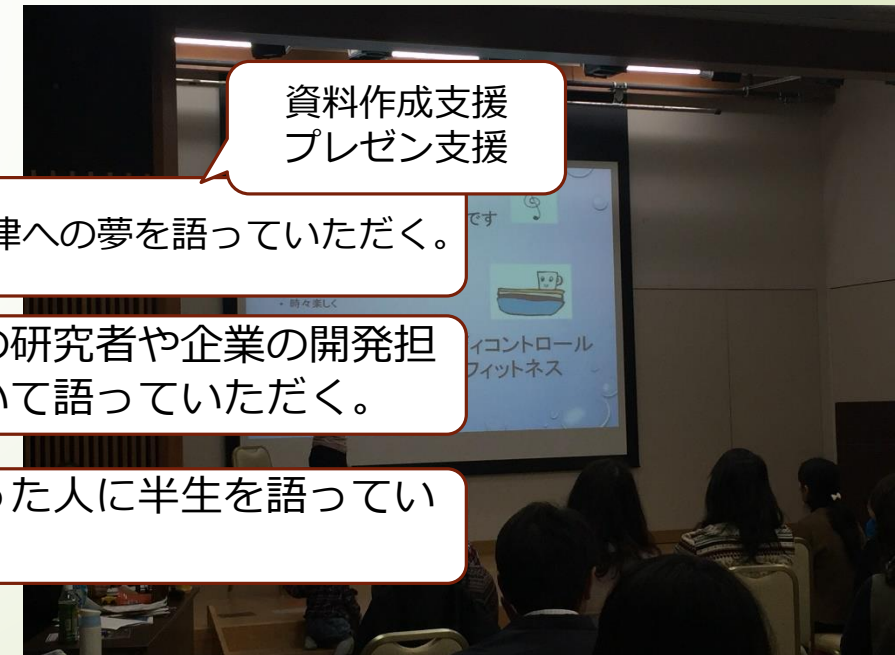
草津市在住・在勤の女性に草津への夢を語っていただく。

私の仕事

草津市在勤の人々（大学の研究者や企業の開発担当等）に自分の仕事について語っていただく。

草津な人

草津で生まれ、草津で育った人に半生を語っていただく。



資料作成支援 プレゼン支援

未来創造セミナー（連携）

- ▶ 未来創造セミナー（連携中心）
 - ▶ 目的 それぞれが語った未来のイメージを実現するために公民学が知恵を出し合い、草津の未来のイメージを具現化するアイデアを纏め、企画を立案、実現に向けて社会実験の実施や既存の団体等に切れ目なく接続します。
 - ▶ 対象者 草津に関心のある人々
 - ▶ 人数 30人程度
 - ▶ 回数
 - ▶ 2ヶ月に1回程度（6回）

(参考) 平成28年度第1回未来創造セミナー

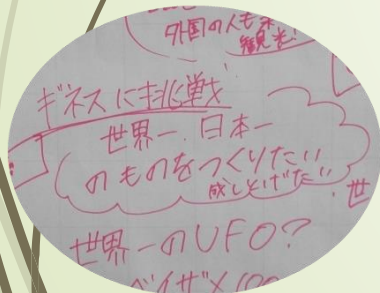
目指せ、世界一！

草津に
世界中の視線集めたいよね！

草津から
愛と夢いっぱいふりまきたいよね！

日時 平成28年6月4日 土 18:15-20:45

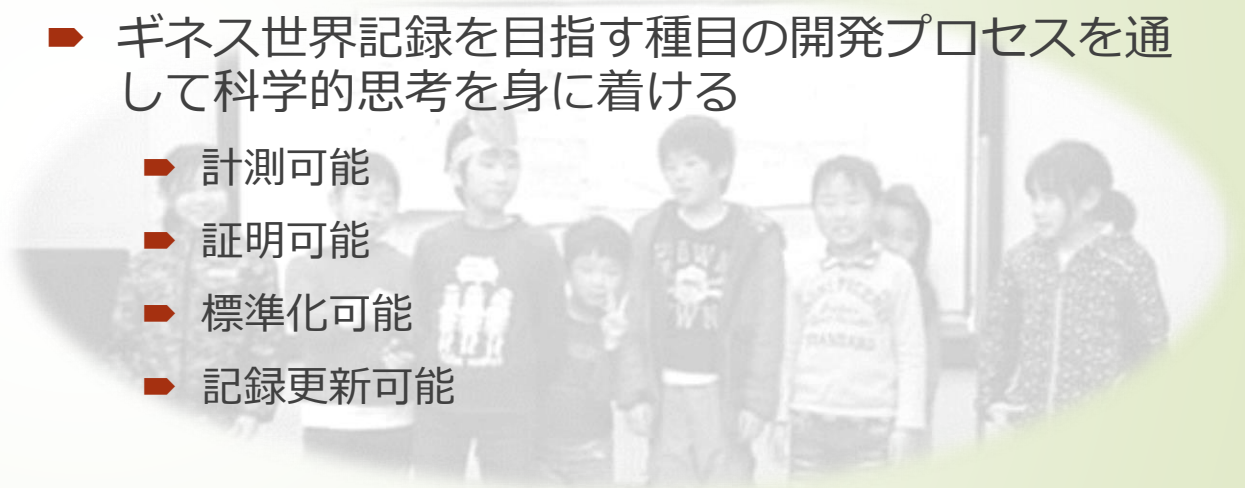
場所 市民交流プラザ 大会議室
草津市野路一丁目15番5号（フェリエ南草津5階）



昨年度実施した第6回の未来創造セミナーでは、子どもたちから「ギネスに挑戦 世界一日本一のものをつくりたい!! 成し遂げたい!!」という提案がありました。2年前に「宝塚1万人のラインダンス」でギネス世界一を達成した宝塚市でも子どもの提案から始まりました。宝塚市ができたことがこの草津市にできないはずはありません。いや、むしろもっとすごいことができるはずですよ！

みんなで世界一を目指し、世界中の視線を草津に集め、そして草津から愛と夢をいっぱいふりまきましょう！

- 子どもたちの夢の実現するため、市民、企業、大学等が連携する場をつくる
- ギネス世界記録を目指す種目の開発プロセスを通して科学的思考を身に着ける
 - 計測可能
 - 証明可能
 - 標準化可能
 - 記録更新可能
- 未来創造セミナーでは種目を検討するまでであり、それ以降はシームレスに実行団体に繋げる。



調査研究（案）

- UDC構成団体による自由な調査研究
- UDCをリサーチ拠点として活用
- 検討結果等について市民と意見交換

▶ オープンデータ利活用手法の調査研究

- ▶ 市所有情報のオープンデータ化に呼応し、オープンデータをまちづくりに活かすための手法を検討
- ▶ アイデアソン、ハッカソンの実施
- ▶ スマートデバイスを利用した地域情報の収集手法の検討

▶ 空きワンルームマンションの利活用案の検討

- ▶ 空きワンルームマンションの実態調査
- ▶ 空きワンルームマンションの利活用案の検討

▶ 都市デザインスタジオ

- ▶ 学生の自由な発想のもと、未来の草津の都市デザインについて調査研究

社会実験推進事業

- ▶ 包括協定締結大学を対象とした「アーバンデザイン」「食と農」「健康」「子育て」「産業振興」をテーマにした社会実験の委託事業
 - ▶ 5事業の実施予定（一件あたり40～50万円を想定）
 - ▶ 1大学1事業を原則とする
 - ▶ テーマについては市からリストを提示し、協議の上、決定する。
 - ▶ 平成28年度は10月からの6か月とする。

- ▶ 委託条件
 - ▶ UDCを活用した社会実験とすること
 - ▶ 市民、または市民グループと協働すること
 - ▶ 中間報告、最終報告の2回、市民を対象とした報告会を開催すること

その他イベント

- 草津市立南図書館が隣接する立地を活かしたプログラム開発
 - ビブリオバトル
 - マイクロライブラリー
 - 読み聞かせ
- 他部署が行う様々な政策月間に合わせたイベント
 - 児童虐待月間（男女共同参画室）のパネル展示に連動したイベントの実施
 - 毎月17日の防災おにぎりデー（危機管理課）に合わせたイベントの実施
- 構成団体、および協力団体との共催等
 - 防災
 - 子育て
 - 多文化共生

構成団体等の独自プログラム（案）

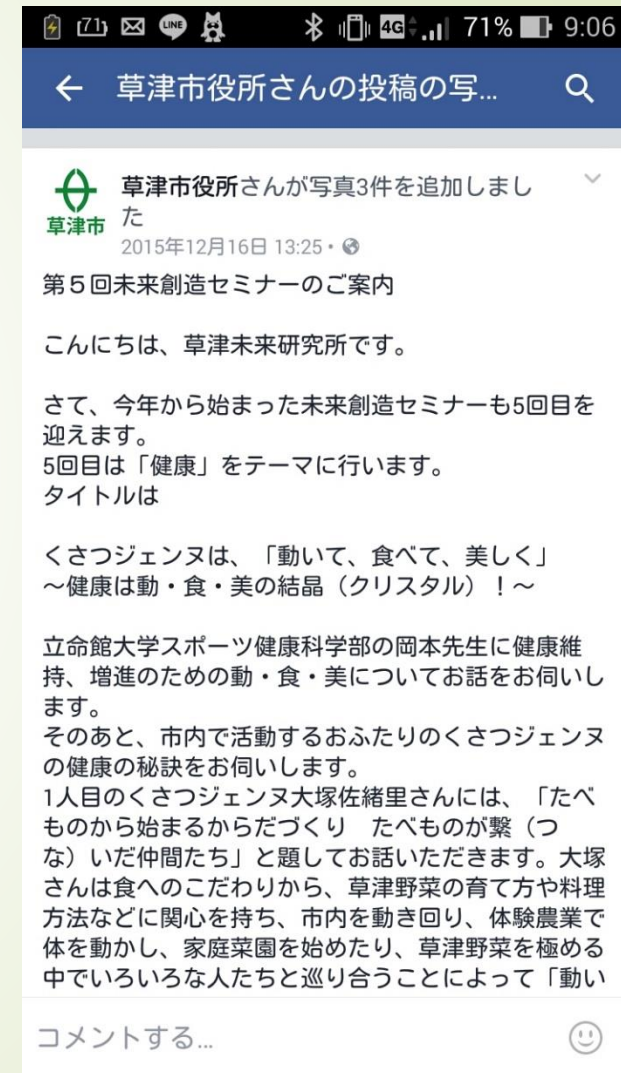
- ▶ 大学の独自プログラム
 - ▶ UDCの理念に合致した市民を対象とした大学主催イベント
 - ▶ UDCの理念に合致した学生団体によるイベント

- ▶ 企業の独自プログラム
 - ▶ UDCの理念に合致した新商品・サービス等のモニター調査
 - ▶ UDCの理念に合致した市民を対象とした各種イベント

- ▶ 市民団体等構成団体のプログラム
 - ▶ 子育て
 - ▶ 多文化共生

情報発信（案）

- ▶ Facebook、Twitter等ソーシャルメディアの活用
- ▶ えふえむ草津との連携検討



全体の流れ

草津市社会実験推進事業について

3

(仮称) UDCBKの概要について

12

(仮称) UDCBK開設について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

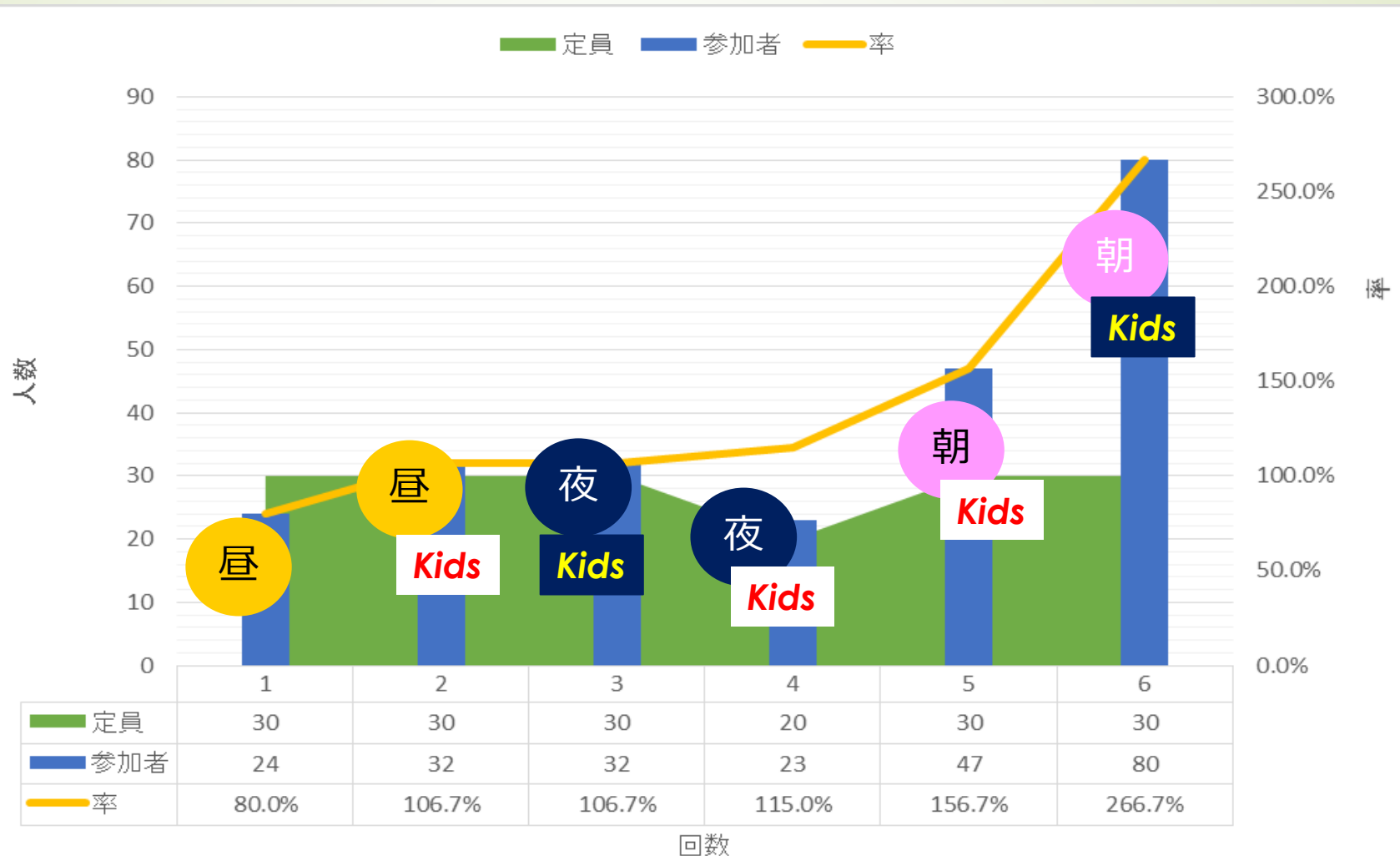
44

未来創造セミナー開催の目的

- ▶ 気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造される「場」
 - ▶ 地域をベースに市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」
- を検討するため、南草津駅前の市民交流プラザにて「未来創造セミナー」を開催する。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
テーマ	理想とする女性の働き方	子育てしやすいまち	アーバンデザイン (散歩道)	文化	動・食・美	大学地域連携
庁内連携部署	男女共同参画室	子ども・子育て推進室	都市計画課	未来研究所	未来研究所	未来研究所
専門家	二宮周平 (立命館大学) 京樂真帆子 (滋賀県立大学)	小沢道紀 (立命館大学)	武田史朗 (立命館大学)	木下達文 (京都橘大学)	岡本直輝 (立命館大学)	肥塚浩 (立命館大学)
開催日時	平成27年 7月30日 14:00～16:30	平成27年 8月25日 14:00～16:30	平成27年 11月5日 18:00～20:00	平成27年 12月3日 18:15～20:15	平成28年 1月26日 10:00～12:00	平成28年 3月26日 10:00～12:00
子ども	×	○	○	○	○	○
場所	市民交流プラザ（南草津駅前）					

未来創造セミナー参加実績

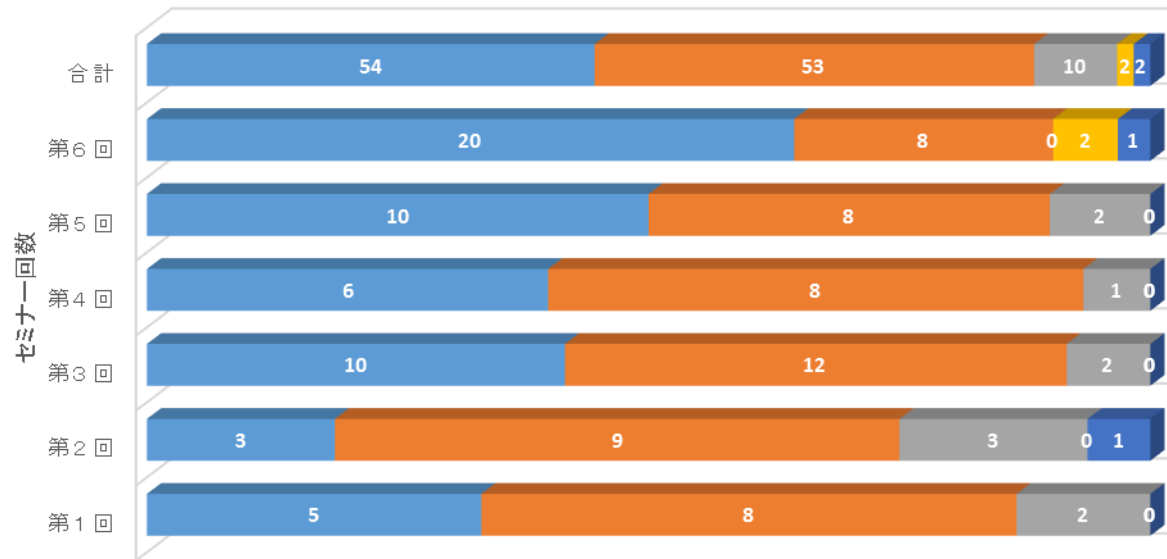




アンケート集計結果

運営等全般

■非常に有意義 ■有意義 ■まあまあ ■物足りない ■非常に物足りない



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計
■非常に有意義	5	3	10	6	10	20	54
■有意義	8	9	12	8	8	8	53
■まあまあ	2	3	2	1	2	0	10
■物足りない	0	0	0	0	0	2	2
■非常に物足りない	0	1	0	0	0	1	2

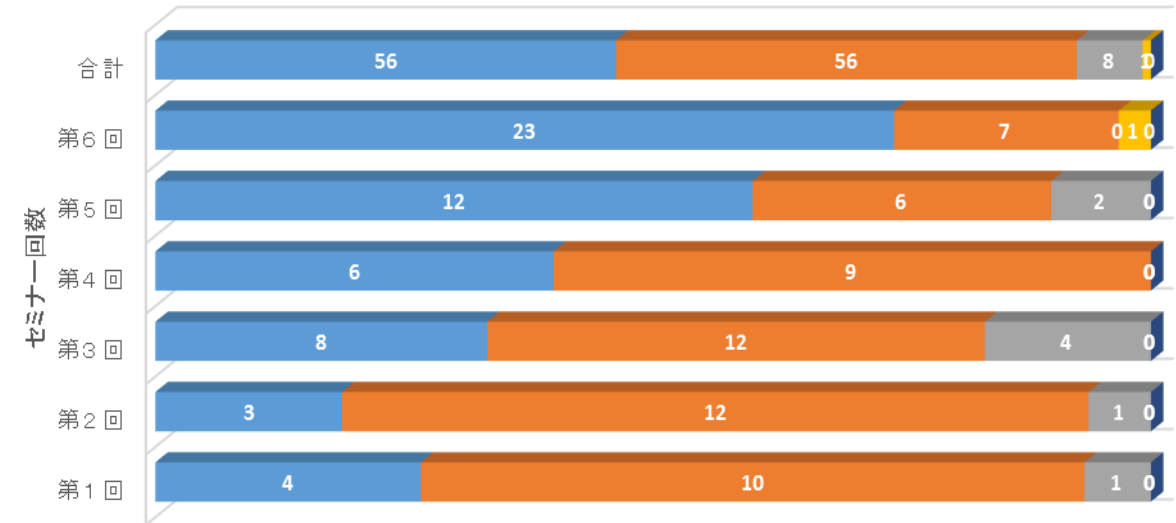
回答数

時間が短い

時間が短い

セミナーの内容

■非常に有意義 ■有意義 ■まあまあ ■物足りない ■非常に物足りない



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計
■非常に有意義	4	3	8	6	12	23	56
■有意義	10	12	12	9	6	7	56
■まあまあ	1	1	4	0	2	0	8
■物足りない	0	0	0	0	0	1	1
■非常に物足りない	0	0	0	0	0	0	0

回答数

セミナー参加者の主な意見

- 気軽に話せる雰囲気だったので話しやすかったです。話が盛り上がってワクワクしました。次につながるというなあと思います。
- こうやって行政の方、大学の方、市民がざっくばらんに話せる機会がもてていることがそもそも素晴らしい。
- 問題意識を持たないで来ましたが、色々と考える機会になりました。こういう所から未来創造というものがあるのかなと思いました。
- 長く住んでいる方、昔住んでた方、お子さんのいらっしゃる方など自分とは違う目線の色んな意見が聞けたため。
- 再就職するだけが社会復帰ではない。まちづくりに参加することも社会復帰であることがわかった。
- 託児付き？で子供が泣きながらも運営できるところがすばらしかった。時間も2hでちょうど良いと感じました。

セミナー参加者アンケートからの課題

- いつも同じ顔ふれになりがちなので、ぜひ話したいのにこのような場所を知らない人、知っているけれど一歩踏み出せないでいる人、楽しそうに議論している様子を見てテーマに関心を持つかも知れない人など**いろいろな人が気軽に参加できるように**考えてほしい。
- 私のいたテーブルは当たり(?)だったようで、とても楽しい有意義な時間を過ごせましたが、お友達のいたテーブルは、終始雑談で何だかなあ...。と思ったようです。同じセミナーにせっかく参加したのだから、**できるだけみんなが楽しくすごせた方が良かったのになあ...**。と思います。(私は、よくセミナーに行くけど、友達は初めてです。)初めて来た人にこそ、楽しいやん。また来てもいいな。と思ってもらった方がよいのでは? 様子みて、席かえとか、あっても良かったのかな? と思いましたが、どうでしょう。初参加の人に、雑談では、次来ないよ。(原文ママ)
- もっと多くの人に参加してもらいたい。**自分を発見し、地域を発見する。その繰り返しをしていくことでより深くなるのだと思う。なぜ、なぜ、なぜをくり返す。**草津の根っこを発見し、もっとしっかり根をはる事をしていくこと、**コミュニケーションをもっと取ってお互いの理解を深めたい。**
- **意見をぜひ実現**しましょう
- **継続的に同じテーマ**でやったほうがいい

未来創造セミナーで明らかになった 連携拠点設立に向けた課題

■ 多様性

- テーマ等によって参加者が一定の層に偏在する可能性あり、次の層が参加しやすい環境づくりが必要
 - 伝えたい情報や知りたい情報があるにもかかわらず、参加の障壁が高い層
 - 問題を知らないゆえに無関心なままの層
 - 直接関係がないが、間接的に関係する問題に取り組む層
 - 地域で活躍の場を求めている幅広い知識や経験を持つ学生、社会人、リタイア層

■ 専門性

- ファシリテータ等場の運営のノウハウを持つ人材
- 様々な分野の専門知識を持つ人々の参加による状況的学習機会を提供
 - 専門的な知識を持つ学識者や企業関係者、行政職員、NPO等の参加

■ 実行性

- 問題解決に向けて実際に活動する取り組みへの支援が必要

連携拠点づくりのまとめ

- 市単独事業による連携拠点の限界
 - 市が課題をあげ、都度地元の大学の専門家を招き、ワークショップを開催
 - その後は所管課が継続を判断

常に開かれた
専門家が常駐する

市が決めるのではなく、
市民が提起した
テーマについて

気軽に自由に議論や話ができる空間
常に新しい出会いが創造
市民と行政、企業、大学等が連携

→ 色々な人が参加

連携拠点の仕組みとして
アーバンデザインセンターが有効

組織として
の参画